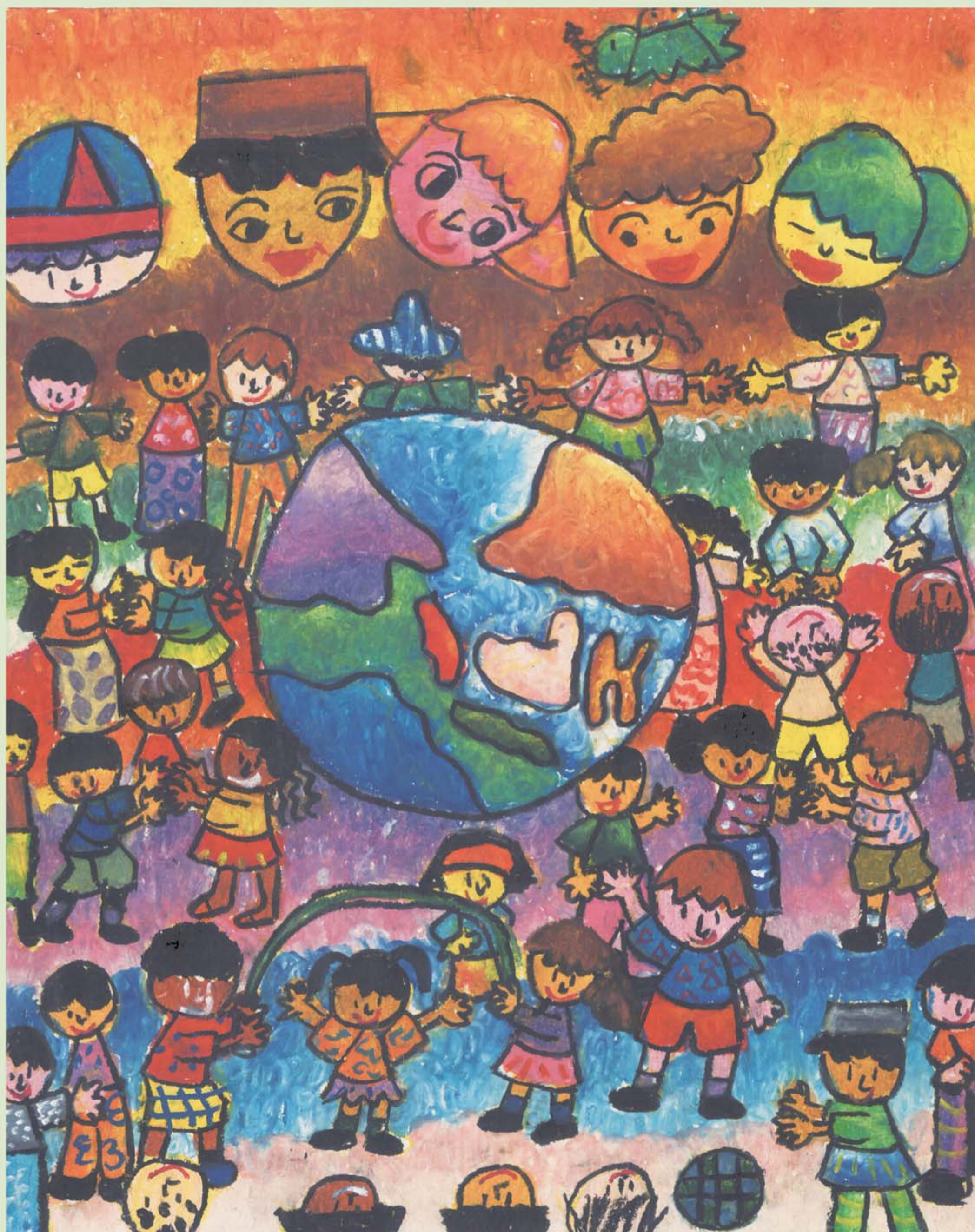


# MACROCOSM



## CONTENTS

- 2 第10回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」(NPOマネジメントフォーラム2012)
- 4 第5回「国際交流リーダー養成セミナー」
- 6 国際理解教育支援プログラム
- 8 青少年国際交流を考える集い
- 10 平成23年度内閣府青年国際交流事業(航空機による青年海外派遣)報告会
- 11 第38回「東南アジア青年の船」事業報告会
- 12 内閣府青年国際交流事業 大学説明会平成23年度実施報告
- 13 平成23年度財団法人青少年国際交流推進センター事業一覧

# 平成23年度 第10回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」 NPOマネジメントフォーラム2012

「NPOマネジメントフォーラム」は、高齢者・障害者・青少年の三つの分野の非営利セクターで活躍する日本と諸外国の青年が一堂に会して、各国のNPO事情や活動事例に基づく有益な情報を共有し、実践的な意見交換を通じてNPO運営に関する能力の向上を図り、それぞれの分野において社会活動を支え、その中心的な担い手となる青年リーダーを育成することを目的として実施しています。

今年度は平成24年2月9日(木)～12日(日)、「非営利団体と行政のさらなる連携強化と協働について」を総合テーマに、日本とデンマーク、ニュージーランド、ドイツの青年が集まりました。

多様化した現代社会に次々と現れる課題に対応していく上で、非営利団体が果たす役割は、よりいっそう大きくなっています。また、政府や地方行政のパートナーとして、施策を共に作り上げ実施していくことが、今まで以上に期待されています。非営利団体が、地域社会及び様々な分野において今まで対応されていなかったニーズにきめ細かく応える力を発揮するためにも、行政との連携を強化し、共に課題に立ち向かう体制をつくりあげる必要があります。

そのため、今年度のフォーラムでは、参加各国での非営利団体と行政との連携の事例を共有し、連携促進に必要な考え方や取組を三つのトピックに分かれて話し合い、参加者が具体的な方向性を持ち帰ることを目指しました。

参加者は、課題別視察やディスカッションを通じて情報共有や意見交換を行い、その成果を「NPOマネジメントフォーラム2012宣言文」としてまとめました。

## 【総合テーマ】

「非営利団体と行政のさらなる連携強化と協働について～非営利団体と行政機関の協働体制を創るには、いかなる考え方や取組が必要かを考え、具体的な方向性を見出す～」

## 【ディスカッション・トピック】

1. 行政の施策・方針決定過程への非営利団体の参画
2. 事業実施に際しての行政と非営利団体のパートナーシップ
3. 行政と非営利団体の情報交換・共有の在り方



トピック1のディスカッション



宣言文を読み上げる参加者

## 日程

月日	時間	日程
2月9日(木)	13:30-16:45	日本参加者研修  外国参加者のみ AM:課題別視察1(トピックごと) PM:課題別視察2(トピックごと)
	19:30-20:30	全体オリエンテーション
2月10日(金)	9:00- 9:20	開会式
	9:30-10:30	全体会
	10:45-12:15	トピック別オリエンテーション
	14:00-17:30	ディスカッション
	19:15-20:45	文化交流会
2月11日(土)	9:00-12:00	ディスカッション
	14:00-18:00	ディスカッション
	18:30-20:00	分野別夕食交流会
	20:00-21:00	・成果発表の準備 ・宣言起草委員会
2月12日(日)	9:00-10:30	・成果発表の準備 ・宣言起草委員会
	11:00-12:30	成果発表会
	12:40-13:50	歓送昼食会
	14:00-15:00	評価会
	15:10-15:30	修了式
		日本参加者解散

## NPOマネジメントフォーラム2012に参加して

菊地 月香

ディスカッションに意欲的に参加する外国参加者の姿勢から、行政や企業などへのアプローチ、経営自立化を目指した財源やパートナーシップの確立に向けた具体的で幅広い手法など、自らの活動にフィードバックすべく多くのエッセンスを得られたように思います。始めは緊張もあり、受け身で参加していた私自身も、ディスカッションでは外国参加者の意欲に刺激を受け、組織性格や環境、立場の違いなど、自らのフィールドを客観視しながら主体的に参画することができました。

さらに、ファシリテーターの進行から、メンバーシップの構築やアイスブレイク、ファシリテーションなどの会議運営や組織内の人材育成方法を学びました。また、通訳を介したコミュニケーションからは、簡潔で構造化した伝達の能動的な意識化など、プログラムから様々な「仕掛け」を感じたり、参加者との交流から多くの刺激を受けたりと非常に充実した4日間でした。



小グループでディスカッションする(筆者一番左側)

# NPOマネジメントフォーラム2012 宣言文

私たち本フォーラムの参加者は、複雑化する社会の諸課題に対応し未来を切り開いていくためには、非営利団体がより重要な役割を担うことができると考え、非営利団体と国や地方行政、企業そして地域社会などとの連携により効果的な協働に向けて努力していくことが必要であると認識している。中でも、国や地方行政とのさらなる協働の促進は重要課題であり、そのためにはどのような取組が必要かを討議した。

ここに、その成果をまとめて宣言文とし、参加者と共有するとともに、広く非営利団体及び行政関係者に、さらなる協働体制強化のために必要な取組について呼びかけることとする。

## 1. 私たちがめざす理想的な社会とは

私たちは、平和、平等、公正の精神のもとに、それぞれの責任と義務を果たす高い意識を持ち、互いが協調協力しあって豊かな心で助け合っていける持続可能な共生社会の構築を願うものである。そして、そのために、社会を構成する各機関が、それぞれの役割を明確に認識しあい、責任を果たしていくとともに、社会的ニーズを十分に把握していかなければならないと考える。

## 2. 非営利団体と国及び地方行政との連携、協働にあたっての考え方

社会において、非営利団体が果たす役割と行政が果たす役割を明確にするとともに、違いを認識して、互いの役割の重要性を理解する。そして、非営利団体と行政が対等な立場で補完しあって社会を創っていく存在であることを認めあわなければならない。

## 3. 今後の連携・協働の在り方

- ・(非営利団体と国及び地方行政は)互いの役割を果たしていくために、お互いの信頼関係を築くことの重要性を認識して、互いを尊重し相互理解が促進される効果的なコミュニケーションを継続的に図る
- ・非営利団体は、現場のニーズを正確に行政に届けるために、提言、助言並びに具体的なデータの提示などのあらゆる努力を惜しまない
- ・国及び地方行政は、非営利団体からの情報や意見を真摯に受け止め、施策や方針策定に効果的に反映させる責任がある
- ・国及び地方行政は、方針決定や施策実施にあたって、非営利団体の参画を促進し、連絡調整を十分に行うとともに、互いが目指す成果が達成できているかを相互の立場において冷静に評価しつつ取り組むことが重要である

## 4. 非営利団体が、国及び地方行政との連携・協働を進めるにあたって努力し取り組むべき事柄

- ・行政組織の取り扱うことができる業務内容や価値基準、権限の範囲への理解
- ・行政組織を理解したマネジメント力の高いスタッフの育成
- ・国及び地方行政や社会に成果を具体的に示すことができる団体とし

ての総合力の育成

- ・国及び地方行政からの信頼を得られるだけの、自身の団体の特徴や力量を伝える努力
- ・国及び地方行政に積極的、継続的にコミュニケーションを図る努力
- ・団体同士の連携を強化して、国及び地方行政に対して行動を起こすことのできるより効果的な体制作り

## 5. 国及び地方行政に、非営利団体との連携・協働を促進するために取り組んでほしい事柄

- ・「方針や施策の決定にあたって、決定過程に非営利団体の参画を求めることの重要性」を行政関係者が十分に認識するための啓発
- ・非営利団体との公式な会議を設定するなど、行政とコミュニケーションをとりやすくする場を設定し、相互に信頼関係が構築されるよう積極的な努力
- ・関係非営利団体の特性や力量の把握
- ・事業で求める具体的成果と評価基準の明示
- ・業務内容の的確かつ継続性のある引継ぎ
- ・職員が担当している専門分野への習熟
- ・非営利団体との業務上における人事交流や研修などの人的交流などの機会設定
- ・部局間の情報共有、職員間の情報共有
- ・評価基準の標準化

## 6. 今後、国や地方行政との協働を促進させるために、私たちが取り組む事柄

- ・フォーラムで自身が得た成果と宣言文を自身の団体へ持ち帰り、団体内の啓発に活用する
- ・行政との連携・協働のために、自分自身に必要な要素を認識し研鑽する
- ・自身の団体の状況を分析し、改善要素を認識して、団体内で具体的に提案し、合意形成を図り、改善に向けて継続的に取り組む努力をする
- ・他団体との連携強化に努力し、国や地方行政との協働体制を促進させる
- ・本フォーラムの成果を踏まえ、自団体の行政担当窓口とコミュニケーションを具体的に進める

私たちは、今後、参加者のつながりをネットワークとして機能させて、このフォーラムでの成果をいかした継続的なコミュニケーションを図るとともに、互いに仲間として啓発しあっていく。さらに、非営利団体で活動する者として、行政ばかりではなく、すべての関係する組織や人々との協働によって、よりよい社会の構築に向けて貢献する努力を惜しまないことを、ここに宣言します。

NPOマネジメントフォーラム2012 参加者一同



# 第5回 「国際交流リーダー養成セミナー」

テーマ：事業の企画づくりと安全管理～地域の在住外国人との協働プログラムづくり～

平成24年3月24日(土)～25日(日)に、当財団主催の第5回「国際交流リーダー養成セミナー」を国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催しました。

日本に在住する外国人が増加傾向にある中、最近の経済状況の悪化等で様々な問題を抱える方が多くなりました。日本での生活に希望を持って来日した海外の人々を、地域社会の構成員として迎え入れ、隣人として共に生活するためには、彼らと共に地域を作り上げることや、彼らが抱える課題への支援は大切な活動です。

今回の「国際交流リーダー養成セミナー」では、在住外国人を取り巻く地域の教育と生活の課題に焦点をあて、プログラムの企画・運営の方法と現場での安全管理を学ぶ研修を行いました。参加者がこれまで培ってきた経験やスキル、情報を持ち寄って共有するとともに、実際の企画づくりを通して、「目的」と「ねらい」を明確にして企画・運営を行う重要性を学ぶ研修となりました。

## ＜参加者アンケートからの抜粋＞

- ・ 地方でこのようなセミナーを受講する機会が限られているため、実際に支援にかかわっている方と協働して企画することは、私にとって必要な経験・スキルなので、貴重な学びの体験になった。
- ・ 企画のコツがわかったので、立案から実行までの心理的負担が減少した。自信を持って次へ挑戦したいと思う。
- ・ 「どんなことをしたいのか」から考えるのではなく、「何に対してアプローチするのか」という課題から検討することの大切さを学んだ。

## プログラム

第1日目 3月24日(土)	
11:00～11:30	開講式・オリエンテーション
11:30～12:30	<全体会①> 1. 日本における在住外国人支援及び協働の必要性
12:40～13:40	昼食交流会
14:00～17:00	<全体会②> 2. 安全な事業運営のために <全体会③> 3. プログラムの企画・立案
17:00～17:30	<グループワーク①> 内容を定めるための課題の洗い出し
19:00～21:00	<グループワーク②> 実施したい事柄の目的とねらいの設定
第2日目 3月25日(日)	
8:40～ 9:10	<全体会④> 1日目の振り返り・2日目の導入
9:10～12:00	<グループワーク③> 内容の組み立て(間に中間報告) 指摘された目的・ねらいについて見直し
13:00～14:45	<グループワーク④> プログラム内容のまとめ
14:45～15:45	<グループ発表>
15:45～16:30	アンケート記入・振り返り、閉講式

## 全体会②

## 安全な事業運営のために(安全管理は総合力) (一部抜粋)

(財)青少年国際交流推進センター事務局長 大橋玲子氏

安全な事業運営を行うためには、安全を確保するための方策をいかに行うかが大切です。文化の異なる人々を含めたプログラムを行う際は、1.外国人だからといって特別扱いしない(「お客様」ではない)こと、2.無理に同一化しない(人は皆平等であるべきだが、同じではない)こと、3.個人の違いに加えて「国」「民族」意識が絡むこと、4.価値観の違い(言語・宗教の問題)があること、5.文化・習慣の違い(食事マナー、あいさつの仕方等)があることの五つを基本として認識する必要があります。

プログラムの運営にあたり、内的要因により起こり得るリスクをいかに最小限にできるか、計画・準備段階で対処し得る11のポイントを取り上げました。特に、外国人を扱うプログラムの場合、実施場所近くの病院だけでなく、入国管理局や在日大使館等の連絡先を事前に確認しておくことが必要です。

また、日本人の感覚よりも長めに休憩時間を設けること(休憩時間に対する認識が異なるため)、参加者・関係者のコミュニケーションを円滑にすること、参加者に自己管理の重要性を自覚してもらうことなども、安全管理の重要な要素です。前述の点に留意することで、病人の発生を最小限に抑え、病人が出た際に素早く対応することが可能になります。また、参加者の食事制限などの情報を確認することは、参加者からの運営側に対する信頼を得ることにつながります。危機管理マニュアルについては、「過去の事例はあくまで参考であること」、「現場でマニュアルを読む時間はないこと」を踏まえ、現場で扱うものは、最大でもA4用紙2枚程度にまとめることが必要です。

では、実際にトラブルが起きた際の対応はどのようにするべきでしょうか。一番重要なのは、人命です。特に、非常時には参加者全員の心の安定を図るため、現場責任者は積極的に声かけを行い、不安を誘引するような発言は避けましょう。また、非常時に起こったことの実事確認を後から行うのは難しいので、現場の状況(時間、人、場所など)をきちんと記録することが大切です。また、正確な情報を責任者から順次に定めたルートで伝達するようにします。

運営側は、パニックを回避するためにも現場の状況を5W 1Hに基づき正確に把握し、できるだけ早く適切な指示を出すことが求めら

れます。3分を一つの目処にしましょう。また非常時はスタッフも思考を切り替え、責任者の指示に従う必要があります。議論をしている余地はありません。

運営側の対応として、参加者の気持ちに配慮することも重要です。例えば、プログラム中、気分を害して会場を後にした参加者がいたとします。この場合、どのように対応するのが良いのでしょうか。大ごとにしな

いのはもちろんのこと、現場責任者が直接対応して話を聞き、コミュニケーションを十分にはかりましょう。それにより、参加者は自分が責任ある者に対応されているという意識を持ちますし、直接話を聞くことで、状況を正確に捉え、迅速な対応が可能となります。

最後に、メディア対応についてお話します。正確な情報を届けるには、口頭ではなく、適確な表現でプレスリリースを作成する、流した情報の記録を保存することで誤報への備えにもなります。その際には、確認が取れていない事実は述べない、人に直接関係することは、実名は出さない、また、当事者の親族にはメディアが報道する前に伝えるなどのプライバシーへの配慮が重要です。

### 【準備段階でできる安全管理】

- ① 連携機関の選定、連絡先・連絡系統の確認
- ② ゆとりあるプログラム
- ③ スタッフ間の事前打合せ
- ④ 情報の共有
- ⑤ 参加者・関係者とのコミュニケーション保持
- ⑥ 参加者の啓発(自覚、自己管理、異文化理解等)
- ⑦ 施設の下見(避難路・連絡手段の確保等)
- ⑧ 参加者の情報確認(既往症、食事等)
- ⑨ 必要手続き(傷害保険への加入、誓約書等)
- ⑩ 危機管理マニュアルの作成
- ⑪ 過去の事例把握

### 現場総括責任者としての対応

#### <思考の変化>

平常時→非常時

#### ・人心の安定・把握

- ・声をかける
- ・禁句は口にしない

#### ・判断は明確に行い、記録

- ・訴訟になる可能性に留意する
- ・記録について、嘘はつかない

#### ・情報管理

- ・聞かれる前に流す

## ■グループワーク A：地域の在住外国人への教育支援のための企画

はじめに、地域の在住外国人が抱える教育分野の課題を子供・保護者・先生を軸に分類し、地域社会のあるべき姿を考察することによって、「国籍を問わず親も子もハッピーに安心して学校生活を送れる地域を作る」ことを理想として掲げました。

次に、そのような地域づくりの実現において、「地域の構成員（保護者・子供・地域住民・学校教員）のうち誰に焦点を当てた取組が早急な課題であるか」という視点で、企画書の「目的：地域の構成員をつなぐ指導的役割を果たす教員に焦点を当て、地域の異文化理解促進を図る」と「ねらい：実際に外国籍児童・生徒の指導にあたる教員が在住外国人と気軽に交流することを通して、文化や習慣の相違点に気づき、具体的対応方法のヒントを得る」を定めていきました。

続いて、「ねらい」に基づき、実際の活動内容や、プログラムの対象者・協力者、プログラムを通して期待できる効果・成果等を具体的に討議する過程で、行政と非営利組織間、在住外国人の実行委員への参加や協働したプログラム作りの必要性・必然性にも気づくことができました。

最後のグループ発表に向けて目的とねらいの整合性及びプログラム内容の一貫性を検証することで、実現可能性の高いプログラム作りに必要な考え方とスキルを実践的に学ぶことができました。



模造紙にまとめたアイデアを企画書にする

## ■グループワーク B：地域の在住外国人への生活支援のための企画

行政・NPO・学生という異なる立場の参加者が活発に意見交換を行いながら、在住外国人への生活支援プログラムの企画と発表を行いました。

まず、本来必要な生活支援と現状の支援に対する課題に関してブレインストーミングを行い、地域の日本人と在住外国人の双方が繋がっている状態を理想的な社会としました。この社会の実現のためには、在住外国人のみならず、受け入れる日本人への働き掛けも必要という意見も出ましたが、まずは、外国人にとって差し迫ったニーズのある雇用問題に焦点を当てました。

今回の企画では、在住外国人にとって安定した雇用を得るために必要な実力をつけられるプログラムを提供することで、自立につなげることを目的とし、仕事に必要な日本語や慣習を身につけることをねらいとしたプログラムを考えました。

実際に活動内容を作ってみると、参加者からは自身の知識や経験に基づいてさまざまな案が出てきましたが、常に「目的」と「ねらい」に立ち返って議論を進めていきました。参加者は「目的」と「ねらい」を意識して議論することや必要に応じて修正をかけていくこと、またプログラムを実現させるために、自団体の力だけでなく、企業や行政など、他の組織を巻き込むことの大切さを学びました。



話し合った内容を発表する

## タイ王国・スタディツアー2012

平成24年3月19日～27日までの8泊9日の日程で「タイ王国・スタディツアー」を実施しました。本事業は、子供たちと共に生活・活動することを通じて、国際協力活動を実践し、国際協調の精神を養うことを目的としています。For Hopeful Children Project (FHCP)は、孤児であったり、障害を持っていたり等の理由で、社会的に恵まれない状況にある子供を対象とした青少年健全育成プロジェクトで、このような子供たちのことを「希望あふれる子供たち(Hopeful Children)」と呼んでいます。本スタディツアー参加者は、For Hopeful Children Project (FHCP)2012にボランティアスタッフとして加わり、プロジェクト開始前には、子供たちが生活する児童養護施設3か所を訪問しました。詳細は次号で報告します。



児童デイケアサービスセンター FORDECの子供たちが披露してくれたダンスに加わる参加者



FORDECで、子供たちと記念品の交換をし、記念撮影をする



「船と翼の会ふくしま」からの黄色い帽子をFHCPに寄贈する



海軍に見守られながら海ではしゃぐFHCP2012に参加した子供たち

# (財)青少年国際交流推進センター 国際理解教育支援プログラム

国際理解教育支援プログラムは平成16年度より、(財)青少年国際交流推進センターの独自事業として開始され、内閣府青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を日本の学校等に派遣して、国際化時代にふさわしい青少年の育成に貢献してきました。これまでに、約30回の開催実績があり、参加者からは高い評価をいただいています。

## 平成23年度下半期実施実績

### 第3回

日付	平成23年12月7日(水)
実施先	東京都大田区立志茂田小学校
担当者	金子尚子校長、清水絵珠先生(5年生担任)
対象	5年生50名
テーマ	異文化を知ろう、作ろう、学ぼう マレーシアの旧正月 "Wonderful Spring Festival" マレーシアにちなんだ作品を作り、体験を通じて文化を学び、生徒たちが異文化を体感する。
派遣された外国青年	Mr. Chew Kim Soon (マレーシア) *SSEAYP26

### ■スケジュール

10:10	講師小学校到着、会場準備等
10:40-12:15	3、4時限目 5年生との交流 マレーシア文化の学習と"Wonderful Spring Festival"にもとづく作品作り
12:30-12:55	給食交流
13:30	振り返り

\*SSEAYP=「東南アジア青年の船」事業

### ■志茂田小学校教諭の感想

外国人講師が笑顔で気さくに接してくださり、子供たちも楽しく学ぶことができました。映像や写真を見せてくださったのでマレーシアの自然や風土がよくわかりました。子供たちは実際に正月の飾りを作り、マレーシアの文化にも触れることができました。その後のグループ活動も楽しくできました。本校に来ていただき、ありがとうございました。

志茂田小学校教諭 清水絵珠



講師がマレーシアの紹介をする



児童たちがランタン作りに取り組む

### 第4回

日付	平成23年12月13日(火)
実施先	東京都大田区立入新井第五小学校
担当者	清水晶子校長、江袋勇樹先生(4年2組担任)
対象	4年生62名
テーマ	日本の伝統的な遊びを英語で紹介する
派遣された外国青年	Mr. Ricardo Machado (ブラジル) *SWY18 Mr. Kea YUN (カンボジア) Ms. Xiaochen Wang (中国) Mr. Chew Kim Soon (マレーシア) SSEAYP26 Mr. Chinzolboo Dandarbaatar (モンゴル) Mr. Chaturayut Promnil (タイ王国) SSEAYP34

### ■スケジュール

10:10	講師小学校到着、 講師オリエンテーション
10:40-11:30	3時限目 1、2組合同 全体会 各講師の出身国の紹介
11:35-12:25	4時限目 1組のみ 日本の昔遊びを英語で学習
12:45-13:15	給食交流
13:45-14:20	5時限目 2組のみ 日本の昔遊びを英語で学習
14:30-14:50	講師との振り返り

### ■外国人講師の感想

講師として国際理解教育支援プログラムに参加でき、お世話になった先生、子供たち、そしてスタッフの皆様には感謝しています。自国のことを教えるだけでなく、日本の教育現場で多くのことを学ぶことができました。一日のプログラムでは時間が限られていますので、可能であれば、また同じ学校(クラス)を訪問し、継続して授業が実施できればと思います。ありがとうございました。

Mr. Chaturayut Promnil(タイ王国)

\*SWY=「世界青年の船」事業



各講師が出身国について発表する



カンボジアの伝統的な遊びを児童に紹介し、実演する

## 第5回

### ■スケジュール

日付	平成23年12月14日(水)
実施先	東京都大田区立東調布第一小学校
担当者	杉達雄副校長、白石裕彦研究推進委員長
対象	2時限目 全体会 全校生徒709名 3、4時限目 3年生・4年生210名
テーマ	国際交流行事
派遣された外国青年	Mr. Ricardo Machado (ブラジル) SWY18 Mr. Vibol Chuon (カンボジア) Mr. Chaturayut Promnil (タイ王国) SSEAYP34 Mr. Andry Yudha Kusumah (インドネシア) SSEAYP31 Ms. Mahanani Ratri(インドネシア) SSEAYP33 Ms. Amarmaa Jambaa (モンゴル) Mr. Bayarmunkh Tsend-Ayush (モンゴル) Mr. Alejandro Basanez (メキシコ合衆国) Ms. Feruza Khaidarov (ウズベキスタン)

9:40-10:15	2時限目 全体会(全校生徒) 講師の国や講師の好きな食べ物・スポーツに関するクイズを用い、児童と交流する
10:35-11:30	3時限目 3年生のクラス交流会 講師の国・あいさつ・伝統衣装などについて学習する
11:35-12:20	4時限目 4年生のクラス交流会 伝言ゲーム、フルーツバスケット、かるた取りを通して生徒と交流する
12:30-13:05	給食交流
13:30	解散

### ■外国人講師の感想

様々な国出身の講師が小学校と一緒に訪問することにより、授業の内容も興味深くなり、非常に充実していました。また、日本の子供たちにとっても、様々な国のことを同時に学び、経験を共有できることは有益だと感じました。私自身、日本の子供たちとの交流を通じて、子供たちの規律正しさ、賢さ、そして、たくましさを実感しました。日本の小学校教育についての知識も深まり、関係者の皆様にお礼申し上げます。

### Mr. Vibol Chuon(カンボジア)



外国人講師が児童からの質問に答える



外国人講師が自国の伝統衣装を紹介する

### ◆実施を御希望の方へ

(財)青少年国際交流推進センターでは、小学校、中学校、高等学校、大学だけでなく、自治体等からの講師派遣、プログラムのコーディネート等の依頼にも応じています。当プログラムの実施を希望される場合には、以下の問い合わせ先までお気軽に御連絡ください。

国際理解教育支援プログラム担当:田中佐代子・大久保正美

e-mail: iuesp@iyeo.or.jp / tel: 03-3249-0767 / fax: 03-3639-2436

# 青少年国際交流を考える集い 北信越ブロック大会

期 日：平成23年10月1日(土)～2日(日)  
 会 場：富山観光ホテル(富山県富山市)  
 テーマ：YOU & I(友&愛)～今こそつながろう！  
 富山で広げよう！  
 参加者数：78名

第1日目 10月1日(土)	
14:00	開会式
14:30	基調講演：「つながる世界と日本—大震災を通して分かったこと」 講師：鈴木康雄氏(富山国際大学客員教授、読売新聞社元モスクワ・ワシントン特派員)
16:00	分科会 ①「言葉がわからない!外国での震災体験」シミュレーション&講演会「震災時における外国人支援について」 講師：柴垣禎氏(NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会理事) ②ディスカッション「新しいコミュニケーションツールとこれからの繋がりについて～twitterとFacebookを例に」 コーディネーター：島田祐子氏(富山県青年国際交流機構 事務局長) ③講演「笑いとコミュニケーション」&落語 「笑いとコミュニケーション」～絆とかけて竜宮城と解く、その心は?～ 講師：三遊亭良楽氏(落語家)
19:00	懇談会
第2日目 10月2日(日)	
9:00	目覚まし体操(輪くぐりゲーム)
9:15	帰国報告会&IYEOの特色ある活動報告等
10:15	IYEO会務報告等
10:50	閉会式
11:45	地域理解研修「白エビかき揚げ井&内川遊覧船ツアー」



## 鈴木信二実行委員長の報告

### 開催にあたり工夫した点

分科会は、体験学習・参加型、ディスカッション・討論型、講演会の3種類を用意して、参加者に選択してもらい、参加者の多様なニーズにできるだけ応え、満足感を得られるように配慮しました。また、富山県観光課にお願いして、他県からの参加者用に富山県の観光マップ及び富山県が舞台となった映画の広報用チラシをもらい、富山県のPRをしました。一般参加者へのアンケートは、配布したプログラムの裏に作成しておきました。また、分科会で使用した小物を懇談会でのクイズ大会でプレゼントとして参加者に渡すなどして、購入した物になるべく無駄がでないようにしました。



災害シミュレーション

# 青少年国際交流を考える集い 北海道・東北ブロック大会

期 日：平成23年10月15日(土)～16日(日)  
 会 場：小野川温泉 河鹿荘(山形県米沢市)  
 テーマ：なせばなる 未来への絆 今、自分たちにできること  
 ～“愛と義のまち”米沢からの発信～  
 参加者数：58名

第1日目 10月15日(土)	
14:00	開会式
14:30	基調講演：「東日本大震災で生まれた米沢市民のボランティアの絆」 講師：丸山弘志氏(ボランティア米沢事務局長)
15:50	被災県からの復興支援活動報告 岩手県青年国際交流機構 田村香子氏 宮城青年国際交流機構 伊勢みゆき氏、及川敦子氏 船と翼の会ふくしま 日下部喜美子氏
17:15	ワークショップ「今、自分たちにできること」
18:45	歓迎交流会
第2日目 10月16日(日)	
10:00	帰国報告会
10:55	閉会式
11:45	地域理解研修 紅花染め体験、上杉神社散策など



## 相田隆行実行委員長の報告

### 開催にあたり工夫した点

これから「何ができるか」「何をしていくべきか」を考え、行動へつなげていくという大会テーマを達成するため、プログラムは、①過去を振り返り、現在を見つめ、情報を共有する、②未来を思い描き、決意を新たに、という流れにしました。①は、基調講演及び支援活動報告、②は、①の振り返りも含めてワークショップを行い、大会終了時まで、参加者自身が自然に大会テーマを達成できるように計画しました。

山形らしいおもてなしをするため、①地域性(温泉…山形の全市町村に温泉がある、食事、酒、歴史、方言など)、②愛と義(米沢ゆかりの武将、直江兼統の教え。実行委員長以下、山形メンバーの熱いハート)、③それらの共有(参加者全員で楽しみ味わう。IYEOネットワークの強化、絆の構築)の三点をキーワードに、それぞれ趣向を凝らしました。



ワークショップ「今、自分たちにできること」の様子



# 青少年国際交流を考える集い 中国ブロック大会

期 日：平成23年12月17日(土)～18日(日)  
 会 場：松江ニューアーバンホテル(島根県松江市)  
 テーマ：～縁結びの国 島根から～ 地域と世界を結ぶ!  
 これからの地域貢献の在り方を探る  
 参加者数：52名

第1日目 12月17日(土)	
14:15	開会式
14:15	基調講演：「国際交流、私流(わたしりゅう)」 講師：岩本悠氏(隠岐国海士町人間力推進プロジェクト高校魅力化プロデューサー)
16:30	ワークショップ「IYEOと地域貢献」
19:00	懇談会、スライドショー「国際ネットワークしまねの10年を振り返って」
第2日目 12月18日(日)	
8:30	報告会 山口県「慶南青年カレッジ2011 夏の活動報告」 島根県「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」(島根プログラム) IYEO震災支援の取組
10:30	閉会式
10:45	地域理解研修 A：松江城近辺、B：縁結び神社巡り、C：石見銀山

## 池田俊貴実行委員長の報告

### 開催にあたり工夫した点

IYEO会員の多様な社会活動やネットワークをいかして、これまでより一歩踏み込んだ国際交流活動を展開できるきっかけとなるよう、講師の選定やワークショップの内容を設定しました。また、「国際ネットワークしまね」10周年を記念して、懇談会でスライドショーを上映しました。他県の方にとっても懐かしい映像もあり、和やかな雰囲気になりました。地元特産品や外国にゆかりのあるものを寄贈していただいて、震災支援義援金のチャリティー・オークションを行いました。



岩本悠氏による「国際交流、私流(わたしりゅう)」と題する基調講演

# 青少年国際交流を考える集い 関東ブロック大会

期 日：平成24年1月14日(土)～15日(日)  
 会 場：伊香保温泉松本楼(群馬県渋川市)  
 テーマ：誰もが豊かな心を持って共に生きる地域社会をつくるために、力を合わせてできること～国際交流の体験をいかして～  
 参加者数：53名

第1日目 1月14日(土)	
13:40	開会式
14:00	基調講演：「地域に根ざした活動」～誰もが幸せに生活できる世界をつくるには～ 講師：宮地由高氏 (桐生市ボランティア協議会会長、NPO法人わたらせライフサービス理事長、桐生災害支援ボランティアセンター長、菓匠青柳代表取締役社長)
15:50	分科会 ① 座談会 「ティーラウンジ伊香保」 ② 郷土芸能 「八木節の踊り・お囃子を体験」 ③ 文化体験 「開運群馬のお正月」
19:00	懇談会
第2日目 1月15日(日)	
10:00	帰国報告会
10:55	閉会式
11:45	地域理解研修 ① 伊香保の歴史と風情を聞く：温泉街散策コース ② ゆかりの人を訪ねて：竹久夢二記念館見学コース

## 小川弘和実行委員長の報告

### 開催にあたり工夫した点

参加者同士の議論を深められるように分科会に座談会を設けたり、2日目に帰国報告会を実施したりしました。また、郷土の文化に触れられるように、八木節の練習、だるまの絵付け、地元で伝わる「かるた」の紹介などを実施しました。地域理解研修でも、伊香保温泉街散策や竹久夢二記念館の見学など、地元への理解を深められるようにしました。



宮地由高氏による「地域に根ざした活動」～誰もが幸せに生活できる世界をつくるには～と題する基調講演

# 平成23年度 内閣府青年国際交流事業 (航空機による青年海外派遣) 報告会

平成24年2月5日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、平成23年度内閣府青年国際交流事業(航空機による青年海外派遣)報告会を実施しました。

今年度は、より多くの一般の方に本事業を知っていただけるよう、例年より1か月早くリーフレットを作成して報告会の広報を行い、また、参加青年は、Facebookを活用して、多くの友人知人に報告会への来場を呼びかけました。その結果、250名余の来場者を迎えることができました。

今年度の派遣国(ドミニカ共和国、エストニア、ヨルダン、ラオス、中国、韓国)での活動から得られた成果のほか、学んだこと、事業経験をいかした今後の取組や将来の夢が報告されました。一般来場者からは、「報告会に来なければ、知ることのできないことがあった」「充実した交流事業だったということが伝わってきて、自分も是非参加してみたいと思った」等の感想が寄せられました。また、事業への応募を検討している来場者が、会場に設置された内閣府ブースに列を作って順番待ちをする光景も見られ、報告会は大盛況のうちに終了しました。

## プログラム

時間	内容
13:15	開会式
13:35	参加青年による内閣府青年国際交流事業報告
15:00	平成24年度 内閣府青年国際交流事業説明及び募集について
15:35	ブースアピール
15:45	各派遣団等ブース展示
16:45	閉会式

## 報告会実行委員長のあいさつ

中道 洋司



2011年は日本にとって激動の一年であった。だからこそ、今年度の派遣事業には、今までにない極めて重大な意義があったと感じている。その最大の理由は、訪問国で出会った人々(特に、同世代の若者)との交流を通して、日本が現在どのような状況なのか、私たち参加青年がどのような視点を持ってこれからの局面を打開していくかを伝える使命があったためである。

このような状況の中、「日本代表」という重責を背負って臨んだ派遣事業は、私たちにとって極めて貴重な経験となった。この経験を自らの内にしまい込むことは、非常に惜しい。それゆえ、本報告会は、自らの経験を多くの人に発表する絶好の機会である。短い時間ではあるが、一人一人が訪問国で何を感じ、今回の経験を糧に将来どのような展望を抱き、行動するのか、耳を傾けていただきたい。



参加青年による内閣府青年国際交流事業報告



ブースアピールでは、各国展示ブースの見どころを紹介



ラオス派遣団のブースを訪れ、参加青年と交流する一般来場者



当日配布資料

## ◆この事業に参加して持つようになった夢



「世界の人々をホストファミリーとして受け入れる」ドミニカ共和国派遣団 大山紗嬉



「世界中に友だちを作って日本の魅力を伝えたい」エストニア派遣団 伊藤朋江



“a Worldwide Medical Researcher”ヨルダン派遣団 青木剛志



「教員として生徒が世界に近づく授業をする」ラオス派遣団 谷本麻希



「新興国で人々の生活や国の発展を支える仕事をする」中国派遣団 岡田昌大



「ラジオ番組で韓国のことを伝える」韓国派遣団 中島智美

# 第38回「東南アジア青年の船」事業報告会

平成24年2月26日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第38回「東南アジア青年の船」事業報告会が実施されました。一般来場者(約170名)と今年度参加青年合わせて約200名が参加しました。

今回は「これからの日本を支える私たち～ASEANとのつながりを感じて～」と題し、前半のパネルディスカッションでは、事業を通じて得た経験、感動、学び、友情、そして自らの変化について発表しました。また、船内活動や寄港地活動を分かりやすく紹介するために、参加青年自らが作成したビデオやパワーポイントのほか、外国参加青年によるコメントなどの映像も交えて発表しました。後半の展示では、参加青年一人一人が来場者と直接会話をし、本事業の成果を報告しました。

## プログラム

時間	内容
13:15	開会式
13:30	第38回「東南アジア青年の船」事業概要説明
14:00	内閣府による平成24年度青年国際交流事業募集概要説明
14:30	パネルディスカッション 1. 自己紹介、応募したきっかけ 2. 日本代表青年としての意識 3. 事業中、一番驚いたこと 4. 一番がんばったこと 5. 心境の変化 6. 目標・夢 外国参加青年によるコメントビデオ:「あなたにとってSSEAYPとは?」「何を得たか?」「未来の参加青年へ」
15:40	展示ブース、参加青年によるパフォーマンス(フィリピンのダンス、“Heal the World”合唱)
16:20	閉会式

## 報告会実行委員長のあいさつ

栗山 修治

本年度の「東南アジア青年の船」事業は、昨年3月の東日本大震災により、日本が極めて大きなダメージを受けた直後であったにもかかわらず、大変多くの方々の御尽力によって、予定通り実施されました。このような状況の中で、私たち参加青年は「日本の代表として派遣される」自覚を一層強め、事業に臨んでまいりました。その思いを、報告会のテーマである「これからの日本を支える私たち～ASEANとのつながりを感じて～」に表しました。



私たち参加青年は、この報告会に向け、下船後約2か月の間準備してまいりました。下船後、日本全国へ散った私たちが連携することは簡単ではありませんでしたが、それでも私たちは、日本代表としてASEAN各国代表の青年たちと何を体験し、感じ、学んだのかを一人でも多くの方にお伝えしたい一心で、準備を重ねました。そして本番を終え、私たちは事業で得たものを改めて消化し、これからの日本を支える決意を新たにしました。

最後に、報告会に御来場いただいた皆様、及び運営に協力していただいた皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



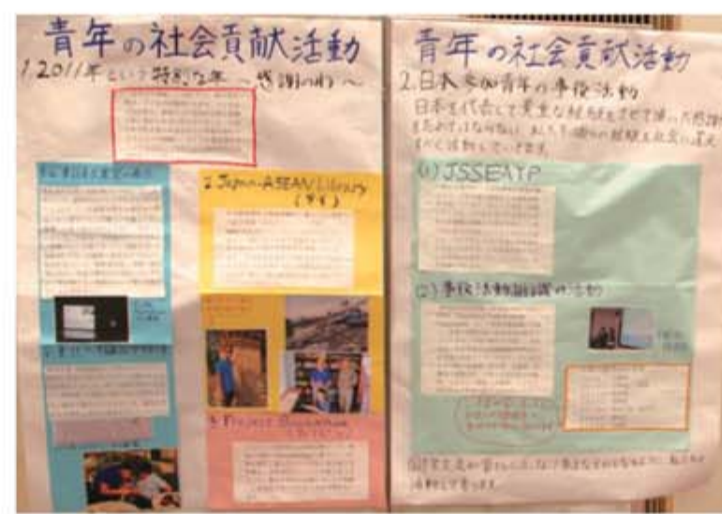
パネルディスカッションで自らの体験と変化について話す



来場者に自分の経験を語る日本参加青年



各国のお茶をふるまいながら、来場者に各国の説明をする日本参加青年



当日配布パンフレット



参加青年全員で“Heal the World”を合唱する

## 一般来場者アンケートより

- ・ 今日、この場にただただ来て、視野が広がりました。同世代の方たちの輝かしい姿に自分を重ね、「もっともっとがんばらなければ!」と思いました。
- ・ 人によって感じることや気づきは違う中で、みんながそれぞれの収穫を熱く話している姿が輝いていて本当にすてきだと思った。参加者のみなさんがうらやましい。
- ・ それぞれが違う背景や経験から参加して、そして新しいことを学んだのだと感じた。何より、参加者みなさんの『絆』に感動した。
- ・ 事業に参加して得たことや、変化などを聞くことができ、具体的なイメージを持つことができました。
- ・ 一人で来たのですが、参加青年の方が声をかけて下さり、質問などでできてうれしかったです。
- ・ 全員が一体となって展示に取り組み、来場者に事業のおもしろさを伝えようとしていることが感じられた。食事を体験できるのもよかった。
- ・ 最後のHeal the Worldに感動しました。来年はあの舞台に立ちたいと強く感じました。
- ・ 皆さんの輝く笑顔と、自信と希望に満ちたお顔を見て、うらやましく思いました。

# 内閣府青年国際交流事業 大学説明会 平成23年度実施報告

内閣府青年国際交流事業を広報するため、内閣府からの契約に基づいて、首都圏の大学を中心に「大学説明会」を実施しました。平成23年度は10月20日(木)から平成24年2月12日(日)にかけて26回開催し、合計771名の方が説明会に参加しました。

説明会では、内閣府担当者からの事業説明の後、既参加青年が応募の動機や事業に参加して得られたもの、今後、事業参加の体験をどのようにいかしたいか等を語りました。応募を検討している学生は、熱心に耳を傾けていました。



大学説明会で自分の体験を話す参加青年(左端)

## 内閣府青年国際交流事業説明会の流れ(所要90分程度の場合)

	プログラム内容	時間
1	内閣府担当者からの事業概要説明	15分
2	事業既参加者の話(2名) ・ 船による海外派遣事業既参加者による報告 ・ 航空機による海外派遣事業既参加者による報告	10分 10分
3	内閣府担当者からの平成24年度募集要項説明	10分
4	質疑応答&事業ごとに分かれて懇談会 (既参加者や担当者を交えて質疑応答)	30分

### 「中央大学での事業報告を終えて」

#### 平成23年度「国際青年育成交流」事業(ヨルダン) 朝比奈 あおは

ヨルダン派遣から帰国して少し経ったころ、母校で体験報告をさせていただくという機会に恵まれました。参加者は10人ほどでしたが、彼らは皆勉強熱心で、新しいことに挑戦したいという熱意にあふれていました。そこでは、派遣を通じての自分の気持ちの変化を中心に報告しました。素晴らしい経験の数々を思い出して、話につい熱がこもると、みんなが何度も聞きながら聞いてくれたことが嬉しかったです。報告会後も、多くの人が残って質問をしてくれました。彼らが「中東やその他の国のことをもっと知りたい」、「派遣だけでなく、事後活動にも積極的に参加してみたい」など熱心に話す様子を見て、私も改めて派遣事業で学んだことをいかして、新しい挑戦をしていこうと逆に刺激を受けました。これからも多くの熱意あふれる後輩たちに、必ずや人生の糧になるこの派遣事業にチャレンジしてほしいと思います。



## 平成23年度大学説明会実施内容

月日	曜日	時間	大学
10月20日	(木)	16:40-18:10	上智短期大学
10月28日	(金)	14:40-16:10	明治大学 駿河台キャンパス
11月8日	(火)	12:35-13:05	青山学院大学 相模原キャンパス
11月14日	(月)	17:00-18:30	早稲田大学
11月15日	(火)	12:20-13:10	お茶の水女子大学
11月17日	(木)	12:50-14:20	法政大学 市ヶ谷キャンパス
		18:00-19:30	明治大学 駿河台キャンパス
11月18日	(金)	16:45-18:15	明治学院大学 横浜キャンパス
11月22日	(火)	18:00-19:30	明治大学 和泉キャンパス
11月29日	(火)	16:35-18:05	中央大学 多摩キャンパス
12月2日	(金)	17:00-19:00	筑波大学 留学生センター
12月5日	(月)	16:10-17:40	横浜市立大学 金沢八景キャンパス
12月6日	(火)	12:15-12:55	津田塾大学 小平キャンパス
12月7日	(水)	13:30-15:00	東京外国語大学
12月9日	(金)	17:00-18:30	上智大学 四谷キャンパス
12月12日	(月)	12:35-13:35	青山学院大学 青山キャンパス
12月14日	(水)	15:00-16:30	獨協大学
12月15日	(木)	12:20-13:10	立教大学 池袋キャンパス
12月16日	(金)	12:50-13:20	関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
1月10日	(火)	12:40-13:50	国際基督教大学
1月16日	(月)	10:40-12:10	東洋英和女学院大学
		13:10-14:40	
1月18日	(水)	16:30-18:00	成蹊大学
1月25日	(水)	16:30-18:00	麗澤大学
2月10日	(金)	18:30-20:00	広島大学 学生プラザ国際交流センター
2月12日	(日)	14:00-16:00	ひろしま国際プラザ

# 平成23年度 財団法人青少年国際交流推進センター事業一覧

## 1. 青少年国際交流事業の企画、実施及び協力

- (1) 国際理解教育支援プログラム(今年度は全て東京都大田区立の小学校で実施)  
道塚小学校(7月1日)、大森東小学校(9月15日)、志茂田小学校(12月7日)、  
入新井第五小学校(12月13日)、東調布第一小学校(12月14日)
- (2) 第5回「国際交流リーダー養成セミナー」(3月24日～25日)
- (3) 青少年国際交流スタディツアー  
内容：「タイ王国・スタディツアー2012」(3月19日～27日)

## 2. 内閣府等の実施する青年国際交流事業への協力

- (1) 内閣府の実施する青年国際交流事業への協力  
「国際青年育成交流」事業、「日本・中国青年親善交流」事業、「日本・韓国青年親善交流」事業、「東南アジア青年の船」事業、  
「世界青年の船」事業、「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」、「青少年国際交流事業の活動充実強化における支援業務」
- (2) その他の国際交流事業への協力
  - ①韓国青少年国際協議会の依頼により、第8回「東北アジア青年フォーラム」への日本参加者募集広報に協力(8月3日～8日)
  - ②韓国青少年団体協議会の依頼により、第22回「国際青少年広場」への日本参加者の募集、選考を実施(8月17日～24日)
  - ③韓国青少年団体協議会の依頼により、「2011アジア青少年招へい研修」への日本参加青年の募集、選考及び研修を実施(7月27日～8月10日)
  - ④内閣府の依頼により、「ASEAN+3 Youth Caucus」への日本参加青年の募集、選考及び研修に協力(10月17日～21日)
  - ⑤(財)日中友好会館の依頼により、「2011日本青年訪中代表团」の友好分団への日本参加者の推薦を実施(10月及び11月の2回)
  - ⑥内閣府及び外務省からの依頼により、青年交流事業「Voices of the Future」への日本参加青年の募集、選考及び研修を実施(11月7日～15日)

## 3. 青少年国際交流に関する啓発及び研修

- (1) 国際青年交流会議
- (2) 日本・ASEANユースリーダーズサミット
- (3) 第18回青少年国際交流全国フォーラム
- (4) 団体会員のブロック大会(青少年国際交流を考える集い)
- (5) 内閣府青年国際交流事業報告会

## 4. 青少年国際交流に関する出版物の刊行

- (1) 機関誌 MACROCOSM(年4回発行)、ホームページ上でも公開、検索システム導入
- (2) 年報 「平成23年度年報 青年国際交流事業と事業参加者の事後活動」発行
- (3) ホームページ 当センターのホームページにて、団体概要及び事業内容、募集案内等を公開
- (4) パンフレット 当センターの事業内容を紹介したパンフレットの作成及び配布

## 5. 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究

- (1) 青少年国際交流事業に関する情報収集 内閣府青年国際交流事業既参加青年等の名簿整備
- (2) 青少年国際交流に関する調査研究 内閣府青年国際交流事業既参加青年の活躍状況についての調査

## 6. 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等

- (1) 活動奨励金等の交付
- (2) コンサルティング事業等
  - ①株式会社商船三井主催の東日本大震災復興支援活動の一環として「ふじ丸」が被災地に寄港するプログラムのサポートスタッフの募集、選考に協力(4月)
  - ②日本経営クラブ主催「第18回世界の美術鑑賞と解説講演」への後援名義付与依頼に応じた(4月12日)
  - ③NPO法人ETICの「ビジネスの力で社会的課題の解決に挑む経営人材育成道場」次世代社会イノベータープログラムの学生マネジメントスタッフ募集広報に協力(4月)
  - ④内閣府の依頼により、12歳～29歳までのユース特命報告員の募集広報に協力(7月)
  - ⑤内閣府「地域雇用創造事業」の一環として行われたダイヤモンド社主催のプログラムへの参加者募集広報に協力(8月)
  - ⑥ラトビア大使館の紹介により、日本とラトビアの国交樹立90周年と国交回復20周年を記念した「ラトビア音楽の集い～第2回ラトビア音楽祭」の広報に協力(11月12日)
  - ⑦日本経営クラブ主催「第19回JMCコンサート」への後援名義付与依頼に応じた(11月17日)
  - ⑧ダイヤモンド社主催「エネルギーの未来2011」提言の前日祭への観覧者募集広報に協力(12月18日)
  - ⑨独立行政法人国立青少年教育振興機構の依頼により、第2回「世界の仲間とゆく年くる年～体験日本のお正月～」の日本及び外国参加者募集の広報に協力(12月30日～1月2日)

## 第9回「日韓交流連絡会議」開催のお知らせ

日付：平成24年8月17日(金)～19日(日)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

詳細は、追って、メーリングリスト及びホームページ等でお知らせします。

「日本・韓国青年親善交流」事業OB・OG以外の方も参加できます。

自分たちが取り組む事後活動の意見交換  
(共通ロゴマークグループ)



提案されたロゴマークをドミノで作るグループ



ディスカッションの成果発表

写真は全て第8回「日韓交流連絡会議」のものです。

## 第24回「世界青年の船」事業報告会 来場者募集

日付：平成24年6月17日(日) 13:00～16:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

テーマ：青年、大海を知る ～新しい世界への第一歩～

興味がある方は、swyreport@iyeo.or.jpまでお申込みください。

詳細は、追って、メーリングリスト及びホームページ等でお知らせします。



コース・ディスカッションの成果について  
発表する



参加者の体験を直接来場者に伝える分科会



展示を通して、参加青年の価値観・  
生き方の変化を発表する

写真は全て昨年のものです。

### 今月の表紙

SSEAYP International アジア子どもの絵画展  
(1994年実施)

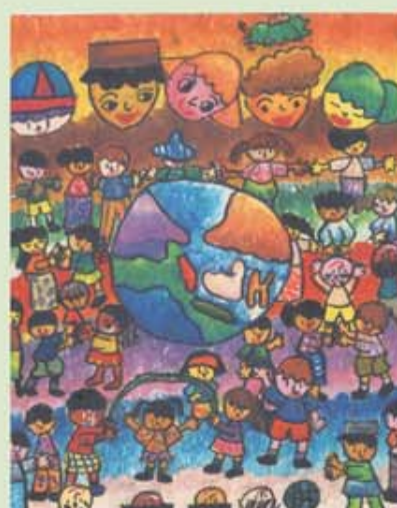
テーマ：「夢」と「家族」

タイトル：We are a big family

作者：Widtya Putri

年齢：11歳

国名：インドネシア



### 編集後記

P.10で取り上げた「航空機による青年海外派遣報告会」に、今年はスタッフとしてかかりました。参加青年は、自分たちのすばらしい体験を一般の方に知っていただくためにはどのように発表すればよいのか、工夫に工夫を重ね、練習していました。今から17年前、自分が参加青年だった時に、ここまで工夫して、帰国報告をしていただろうかと、少々反省しました。「こんなすばらしい体験は、実際に参加しないと分かってもらえないから」と平気で言っていたことを思い出したからです。(ふ)

## MACROCOSM 3月号 vol.97

2012年3月30日発行

編集 マクロコスム編集委員会

発行 (財) 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町

2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 200円 本体191円

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270



「ココロ花咲く、ステキな旅を。」

支店名	電話番号
札幌支店	011-221-0821
青森支店	017-723-3671
盛岡支店	019-651-8800
仙台支店	022-263-3232
秋田支店	018-866-0109
山形支店	023-641-4141
福島支店	024-523-4451
水戸支店	029-224-6627
宇都宮支店	028-636-7761
高崎支店	027-325-3201
さいたま支店	048-640-1009
千葉支店	043-243-0109
ストリームライン 新宿支店	03-5348-3500
横浜支店	045-326-1120
甲府支店	055-222-0381
新潟支店	025-243-1515
富山支店	076-431-7638
金沢支店	076-233-0109
福井支店	0776-23-2800
長野支店	026-226-4315
岐阜支店	058-263-4657
静岡支店	054-255-1919
名古屋支店	052-232-1091

支店名	電話番号
三重支店	059-221-3331
滋賀支店	077-565-0109
京都支店	075-361-5351
大阪支社第2営業部	06-6344-3927
神戸支店	078-221-1090
奈良支店	0742-23-2371
和歌山支店	073-425-3211
鳥取支店	0857-23-2001
松江支店	0852-21-5425
岡山支店	086-225-1746
広島支店	082-545-1090
山口支店	083-972-5454
徳島支店	088-622-8991
高松支店	087-851-6666
松山支店	089-941-9231
高知支店	088-825-0109
福岡支店	092-739-0010
佐賀支店	0952-26-1131
長崎支店	095-827-4151
熊本支店	096-354-5765
大分支店	097-538-1091
宮崎支店	0985-25-6111
鹿児島支店	099-257-0109
沖縄支店	098-868-8822

国際会議から出張まで、  
お問合せは、上記支店またはお近くのトップツアー各支店へ

**お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。**

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

50年の実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは、旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

[旅行インテリジェンス企業]です。



東急観光が社名を変えました。

**トップツアー株式会社**

観光庁長官登録旅行業第38号 ●日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル16階

<http://www.toptour.co.jp>

国際旅行事業部 ストリームライン新宿支店

**03-5348-3500**



そのにっぽんでは、  
大人が楽しく  
生きている。



クルーズの楽しさをご紹介します  
「クルーズプレス」を  
無料購読してみませんか？

お問い合わせは下記・商船三井客船クルーズデスクまで

### 6日間 神戸発着 夏の小笠原クルーズ

2012年 6月23日(土)～6月28日(木) 神戸発～神戸着

旅行代金(大人お一人様・消費税込み) 197,000円～1,000,000円

新しい世界遺産・小笠原へ、神戸から直行できるのが魅力です。父島には1泊停泊し、滞在時間をたっぷり確保。また、シュノーケルやカヤック、自然観察など、小笠原の大自然を満喫できる豊富なオプションツアーをご用意しています。ゲストには、「竹田の子守唄」「翼をください」等の名曲で知られる歌手の山本潤子をお迎えします。小笠原だけでなく、往復の船旅もゆったりとお楽しみください。



エンターテイナー  
山本潤子  
(歌手)



小笠原/父島

### 7日間 夏の北海道クルーズ～奥尻島・天売島・留萌～

2012年 6月29日(金)～7月5日(木) 横浜発～横浜着

旅行代金(大人お一人様・消費税込み) 229,000円～1,200,000円

爽やかな初夏の北海道をご満喫いただけるクルーズ。奥尻島と天売島はにっぽん丸初寄港となります。奥尻島では、北海道の郷土料理・ホッケを使った三平汁をご用意。また、船内では、旬の天売産ムラサキウニや留萌産甘エビなど、北海道のグルメをご堪能ください。留萌では旭山動物園までの無料送迎バスを運行します。「坊がつる讃歌」などヒット曲多数の歌手・芹洋子の歌声も楽しみです。



エンターテイナー  
芹洋子  
(歌手)



留萌

### 8日間 にっぽんの楽園クルーズ2012 ～屋久島・徳之島・沖永良部島・那覇～

- Aコース 2012年 7月6日(金)～7月13日(金) 横浜発～神戸着 8日間
- Bコース 2012年 7月6日(金)～7月10日(火) 横浜発～那覇着 5日間
- Cコース 2012年 7月7日(土)～7月13日(金) 神戸発～神戸着 7日間
- Dコース 2012年 7月7日(土)～7月10日(火) 神戸発～那覇着 4日間
- Eコース 2012年 7月10日(火)～7月13日(金) 那覇発～神戸着 4日間

旅行代金(大人お一人様・消費税込み) 113,000円～1,400,000円

梅雨明け間もないにっぽんの美しい南の島々をめぐる。普段はなかなか行けない徳之島と沖永良部島は、にっぽん丸も初寄港です。にっぽん丸オープンカレッジで島々の食や文化を学ぶのも楽しみ。また、世界的なサルサバンド、「オルケスタ・デ・ラ・ルス」のヴォーカリスト NORA の迫力のステージは必見です。



エンターテイナー  
NORA  
(ヴォーカリスト)



那覇/首里城

掲載のツアーは、この広告でのお申し込みを受け付けておりません。資料(パンフレット)を当社下記店舗までご請求ください。 ※このほかにも各種クルーズがございます。お気軽にお問い合わせください。 ※掲載の写真はイメージです。